

今週の為替相場見通し(2021年1月12日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		102.60 ~ 104.09	103.97	103.20 ~ 105.20
ユーロ	(ドル)		1.2193 ~ 1.2349	1.2200	1.2050 ~ 1.2200
(1ユーロ=)	(円)		126.05 ~ 127.49	127.09	125.50 ~ 127.00
英ポンド	(ドル)		1.3533 ~ 1.3703	1.3555	1.3300 ~ 1.3800
(1英ポンド=)	(円)	*	139.52 ~ 141.38	141.01	138.00 ~ 142.00
豪ドル	(ドル)		0.7643 ~ 0.7819	0.7768	0.7600 ~ 0.7800
(1豪ドル=)	(円)	*	78.85 ~ 80.93	80.74	79.10 ~ 81.60

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 甲斐 貴之

(1) 今週の予想レンジ: 103.20 ~ 105.20 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

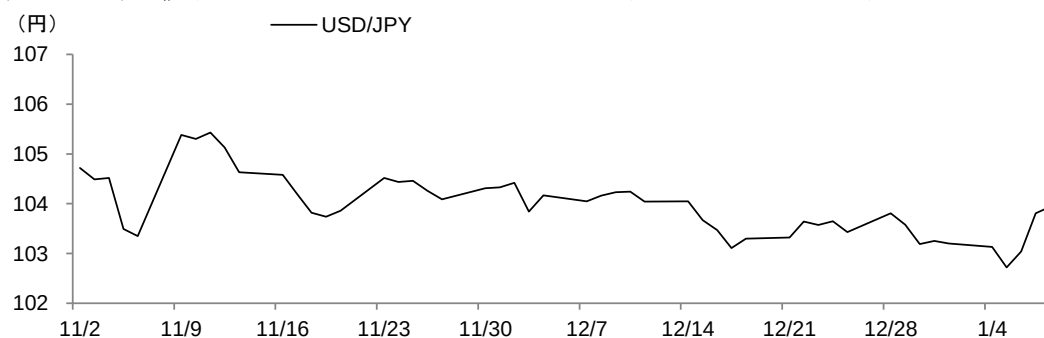
先週のドル/円相場は週後半上昇する展開。週初4日、103円台前半でオープンしたドル/円は、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、首相が緊急事態宣言を週内にも発令する方向で検討しているとの報道を受け、リスク回避の円買いが拡がると102円台後半まで下落した。その後はNYダウ平均が下落する展開にドルの買戻しが強まり、ドル/円は103円台前半まで戻した。5日、OPECプラスにて原油生産量のほぼ据え置きが合意される一方、サウジアラビアは生産量の自主減産を発表するなどリスク志向からドル売り優勢となり、ドル/円は102円台後半まで下落した。6日にかけて、ドル/円は一時週安値となる102.60円まで値を下げた。その後、ジョージア州上院選決選投票での民主党勝利によるバイデン候補の公約である経済対策による国債発行を見越して、米金利の上昇とともにドル買い優勢となり、ドル/円は103円台前半まで上昇した。7日には、民主党が上院決戦で勝利したことにより、上下両院で多数派を確保する「トリプルブルー」になった報道を受け、大型財政政策の実現への期待感から米長期金利が上昇すると、ドル/円は円安が進行し、103.95円をつけた。8日は103円後半で推移を続け、一時週高値となる104.09円をつけたのち、103.97円で越週した。

今週のドル/円相場は緩やかに円安が進展しつつもレンジ相場となる展開を予想する。今週は13日の米12月消費者物価指数を除けば、目立ったイベントは予定されておらず、先週からの米金利上昇を受けた円安のトレンドが継続すると思われる。他方で、コロナの感染拡大が収まらない中では、急激な米金利上昇には繋がらないとも思われ、一段の米金利上昇よりも、米金利1%台前半が定着していくのではないだろうか。ただし、13日に発表される米12月の消費者物価指数が市場予想を上回りサプライズとなれば、米金利の一段の上昇となる可能性がある。逆に、市場予想を大きく下回ると先週からの米金利の上昇幅が調整される懸念もある。いずれの場合も週後半にむけては、米金利の上昇が落ち着くにつれ、ドル/円の上値が徐々に重たくなってくると思われる。重要指標の発表は13日(水)に米12月消費者物価指数、14日(木)に日12月国内企業物価指数、米1月新規失業保険申請件数、15日(金)に米12月ニューヨーク連銀製造業景気指数、米12月小売売上高、米12月鉱工業生産指数の発表が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(1/4~1/8)の値動き:

安値 102.60 円 高値 104.09 円 終値 103.97 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 玉井 美季子

(1) 今週の予想レンジ: 1.2050 ~ 1.2200 125.50 ~ 127.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は揉み合う展開。週初4日、1.22台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、一時1.2211をつけるも、ドル売り優勢地合いに1.23台前半まで上昇。しかしその後は、株安を受けたドルの買戻しや利益確定のユーロ売りが持ち込まれると、1.22台後半まで反落した。5日は、原油高を受けたドル売りに、ユーロ/ドルは1.23台前半まで上昇し、その後は1.23前後をレンジ狭く推移した。6日には、ユーロ/ドルは、一時高値となる1.2349まで上昇したが、米金利上昇を受けたドル買いに1.22台後半まで押し戻された。7日にかけても米金利上昇を受けたドル買いが継続する中、米12月ISM非製造業景気指数の良好な結果を受けたドル買いもあいまって、ユーロ/ドルは1.22台前半まで値を下げた。8日はドル買戻しの動きが継続する中、米12月雇用統計の結果が市場予想を下回ったことで一時1.2285まで戻したものの、その後は再びドル買いに転じた。週安値となる1.2193をつけ1.22台前半で越週した。ユーロ/円は126円台前半でオープンし、126円台でもみ合いの中、5日には週安値となる126.05円をつけた。その後は米上院選において民主党が有利と伝わると、米追加経済対策への期待が高まり、円安が進行。7日には週高値となる127.49円まで上昇。その後は対ドルでのユーロ下落もあり若干値を下げ、126円台後半で越週した。

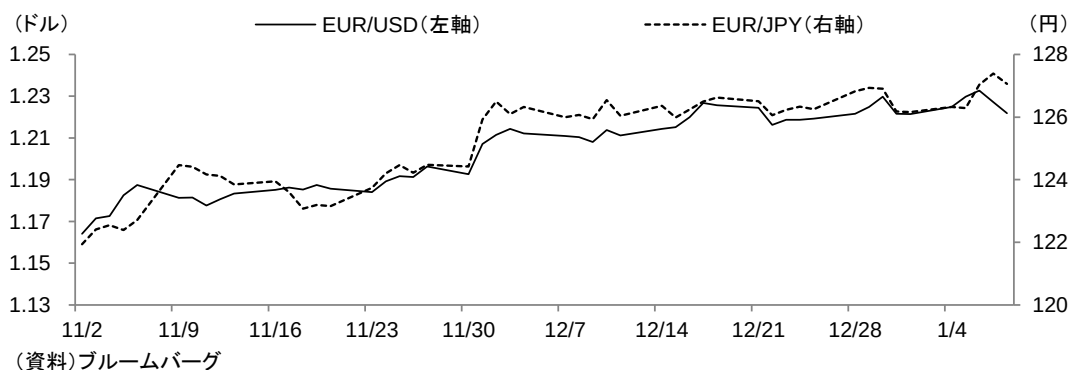
今週のユーロは軟調推移を予想。ユーロ圏は新型コロナウイルスの感染拡大による経済への影響も大きく、依然ロックダウン等を実施している状況であるが、ユーロ/ドルは2年9か月ぶりの高値まで上昇してきた。これは米国が金利を大きく引き下げ、FRBがハト派姿勢を示す中、ドル安の相手として買われてきた面が強く、ユーロが選好されていたわけではないであろう。かかる中、米国での上院選挙で民主党が勝利したことを受け米金利が上昇、ドルの買い戻しの動きが出ており、高値警戒感もある中、ユーロ/ドルは軟調な動きとなるだろう。米国ではFRB高官からテーパリングの時期に関する発言も出てきているが、今週も各連銀総裁や14日にはパウエルFRB議長の講演を控える。パウエル議長がタカ派と取られる発言をする可能性は低いと思われるが、複数の連銀総裁からテーパリング開始時期に関する発言が出ていることを踏まえると、米金利上昇によるドル買い戻しが加速する可能性には注意が必要である。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/4~1/8)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2193 高値 1.2349 終値 1.2200

(対円) 安値 126.05 高値 127.49 終値 127.09



3. 英ポンド

欧州資金部 神田 史彦

(1) 今週の予想レンジ: 1.3300 ~ 1.3800 138.00 ~ 142.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は若干の下落。世界的なドル安を背景に4日は一時対ドルで2018年以来の高値となる1.3703をつけるスタートだったが、英政府が同日夜に新型コロナに関する発表をするとの報道を嫌気してか売りに押されて結局1.36を割り込む荒い値動き。果たして英国は3度目のロックダウンとなると、5日は1.36レベルを上値にやや重い値動きとなったが、1日を通じて安値を拾う動きが見られると米国時間には1.36台を回復。翌6日は1.36台後半へ小幅に上昇したものの、米ジョージア州の決選投票で民主党候補が勝利すると米長期金利の上昇とともにドルが買い戻され再び1.36を割り込む場面も。7日はドル買い基調の中で1.36を挟んでもみ合い、結局1.35台中盤へ下落。8日はドル買いの巻き戻しでじりじりとポンドは買い戻され、米12月雇用統計後にドルが上下する中でポンドも1.36を挟んで振れる展開に。結局1.35台後半で週末を迎えた。

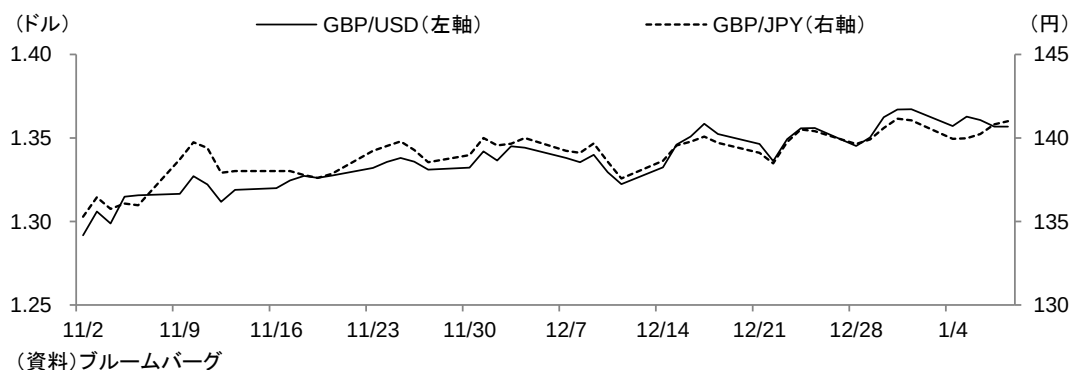
今週の英ポンド相場は、ドル需要を睨みながら上昇リスクをはらんでの上値重い展開を予想。EUとのFTA交渉もひとまずまとまり佳境を過ぎたことから、市場の焦点は再び新型コロナひいてはドルの動向となろう。ジョージア州の決選投票に勝利した米バイデン政権は上院も過半数となったことで足許は米長期金利主導でドル買いとなっているが、新型コロナ向け経済パッケージなど財政拡大を短期的には行いやすく、昨年の大統領選挙と同じ文脈でみればドル安の圧力は続きそう。英国は3度目のロックダウンとなる5日には早々に46億ポンドの企業支援を発表した。これがある程度のポンド下支えになっている可能性はある。一方でEU離脱後の英国では、今のところ税関での大きな混乱等は見られていないようだが、輸出入コストの増加や一部サービスの停止等に各企業が直面している模様で、今後これらの問題が顕在化すれば勿論ポンド売りの材料となる。なお、15日(金)に英11月鉱工業生産と英11月(月次)GDPが発表となるが、既にロックダウン前の過去の数値であるため市場が特段材料視するとは思えない。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/4~1/8)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3533 高値 1.3703 終値 1.3555

(対円) 安値 139.52 高値 141.38 終値 141.01



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.7600 ~ 0.7800 79.10 ~ 81.60 円

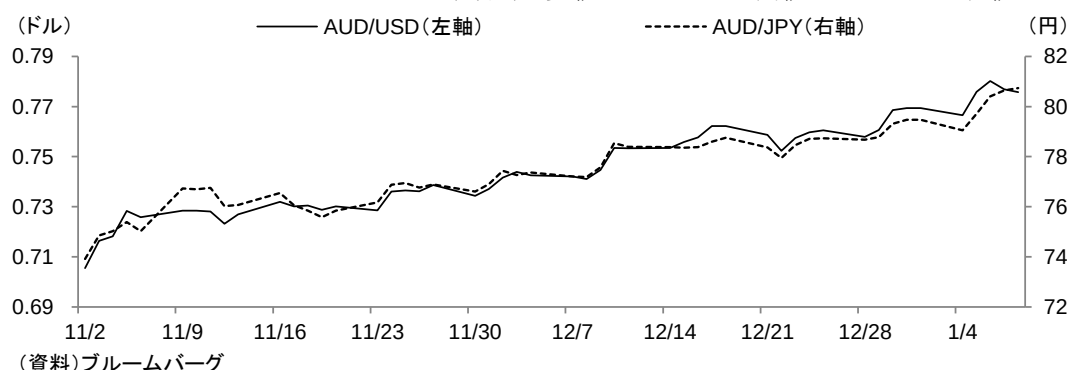
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は下値固めの展開。4日、0.7710台で取引開始後、序盤は堅調な株価や良好な豪不動産指標が支援材料となり買いが優勢に。前年の高値近辺をトライするも上抜け失敗し、0.7660台まで下落。5日、米12月ISM製造業景況指数が18年以來の高水準となったことを受けて米ドル売りの流れが加速すると、豪ドルは上値を追う展開に一時0.7770後半まで上昇。その後0.7760台まで戻して引けた。6日、米ジョージア州上院決選投票で民主党が2議席とも獲得する可能性が高いとの見方が強まると、大型刺激策やインフラ支出拡大などの思惑が膨らみダウ、SPは最高値を更新し、米10年債利回りは上昇し1%台に乗せた。ただし、この日の米金利高はドル買いにつながらず、豪ドルは株価につられて0.78台まで上昇して引けた。7日、前日からの米金利高の流れが継続する中、ドル買い戻しの動きが強まり豪ドルは0.7760台までじりじり下落。8日、米12月雇用統計で非農業部門雇用者数変化が大きく落ち込むと(予想:5万人増)、追加景気対策に対する期待から米金利が更に上昇。米ドル買いの反応で、豪ドルは0.7750台まで下落。

今週は市場関係者が年末年始休暇から戻り、流動性も戻り始める中、豪ドルは下値固めの展開を予想する。先週一時0.78台乗せまで急上昇したが、米ドル買い戻しの動きに押されて足元0.77台で調整中。米株価が連日最高値を更新する一方で、追加財政期待を背景とした米金利上昇が進行しており、豪ドルにとっては強弱入り混じる環境が継続している。2018年の高値から2019年までの下落トレンドを見ると、0.7790近辺にフィボナッチ抵抗線が存在する。11月以降、速いスピードで上昇してきた豪ドルだが、今週は下値固めの週となろう。尚、先日ブリスベンでも新型コロナウイルスの英国変異種が確認され、ブリスベン大都市圏を対象にロックダウンが発令された。豪州国内で更に感染が拡大するような展開になると豪ドルが大きく売られる可能性もある為、本件の進展に注意を払いたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/4~1/8)の値動き: (対ドル) 安値 0.7643 高値 0.7819 終値 0.7768
(対円) 安値 78.85 高値 80.93 終値 80.74



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。